

### 第3回とやまスタートアップ戦略会議（富山県成長戦略会議WG） 要旨

日時：3月4日（金）10：00～11：30

場所：県庁4階大会議室・オンライン

- ・T-Startupの募集に関し、計画書などの各種様式をできるだけ簡易にすべき。
- ・ベンチャー企業を地域全体で支援していくという思想が非常に重要であり、成功するベンチャーは、自分がその企業を育てたという人がたくさん出てくる。その点T-Startupもメンター等の多くの人に、多様な支援をしてもらう仕組みとすることが重要。
- ・起業家間のネットワークの形成には交流会が最も重要となるが、その交流会を引っぱる人と、会いたい人の二つの機能がないと、交流会が継続的に機能しない。例えば、事業のプロデューサーが必ず司会をしているとか、メンターに会いたい人がいないと、毎回参加者が集まらないということになってしまう。
- ・県内大学・高専では共通講義も行っており、その枠組みで大学発のベンチャー起業を題材とした講義を企画すべき。
- ・高校生の起業家教育については、インプット・アウトプットの両方を行う必要があり、例えば、県下すべての高校に対し、ベンチャー起業家からの出張講義の機会を与えた上で、各種起業コンテスト等への参加を募集してはどうか。
- ・高校生等の起業家教育を推進するためには、教職員や、教育委員会へのアプローチがより重要となる。
- ・起業家教育を通して、偏差値の優劣ではなく、世の中を幸せにし、社会に付加価値を与えることが重要だというマインドをつける事が起業家教育の鍵となる。そうした教育を行うことで、学生は起業の有無に関わらず、結果的に良い、社会人、ビジネスマンとなり、当該取組がより社会性の高いものになる。
- ・創業支援センターについては、創業のみならず、新たに県内に事業所を置く企業も受け入れるという選択肢もあるのではないか。
- ・技術系の実験施設の整備については、大学が担っていく必要があり、富山大学、県立大学等の施設が連携して、県全体で創業支援を進めていくことも考えられる。
- ・県内の他が団体の実施するビジネスプランコンテストとの連携を推進し、起業家の横の人的ネットワーク構築を支援すべき。
- ・起業支援の先進地である福岡では、町全体の雰囲気として、学生と地域企業が特に盛り上がっていて、また、福岡市長のトップセールスの影響も大きい。今後、富山県でもエコシステムの形成に向けて、地元企業の新規事業部やCVCとの連携にも注力すべき。